



川崎いのちの電話

題字：初代理事長 近藤俊朗

特集

誰もが居心地の良い地域づくりを目指して



多摩川スカイブリッジとキングスカイフロントのビル群＝川崎市川崎区

ひとりで悩まずに電話相談
044-733-4343



vol. **106**

2022. 11. 1

CONTENTS

特集

誰もが居心地の良い地域づくりを目指して

川崎市ふれあい館副館長 鈴木 健さん

ほっとひといき

「元気だから歌っている」のか

「歌っているから元気である」のか？

インフォメーション

チャリティー寄席「柳家三三独演会」(2023年3月5日開催)

自死遺族ほっとライン

044-966-9951

第2・4木曜：正午～午後4時

自殺予防いのちの電話（フリーダイヤル）

0120-783-556

毎日 午後4時～夜9時

毎月10日 午前8時～翌朝8時

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa.org/> (3回制)

<https://www.inochinodenwa-net.jp/> (1回制)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

事務局：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱17号 ☎ 044-722-7121 発行人：金子圭賢 編集：川崎いのちの電話広報部 URL：<https://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

特集

誰もが居心地の良い地域づくりを目指して 川崎市ふれあい館副館長 鈴木 健さん

近年、社会の格差が広がり地域での結びつきが薄れ、自分から助けを求めることが困難な状況にあります。こうした中で、生きづらさを抱える人に寄り添い、当たり前に関わり自分から「助けて」と声を上げられる地域づくりや居場所づくりを目指して川崎市で活動が続けている鈴木健さんに話を聞きました。

桜本地域との出会い

川崎市の川崎区桜本地域との出会いは10代の頃まで遡ります。当時横須賀に住んでいましたが、朝鮮半島出身の母から桜本地域には古くから多くの在日朝鮮人が住んでいると聞かされていたので、関心がありました。

高校生の頃、家にも学校にも居場所がなく夜の町を歩き回っているうちに、フィリピンの人と出会いとても優しく接してもらいました。ずっと一緒にいるうちにタガログ語^{※1}が自然に話せるようになりました。そんな中、在日外国人の相談を受けたり、コミュニティづくりに関わっていききました。1990年代初め、桜本地域も在日コリアンが多い地域から徐々にフィリピンやいろいろな国の人たちが集まってきて、多文化な町に変わりつつありました。タガログ語が話せたこともあり、ボランティアとして社会福祉法人青丘社^{※2}を手伝うようになりました。

大学卒業後、かながわ国際交流財団の職を得て仕事をする傍ら、フィリピンのシングルマザーの女性と子どもたちのグループ「カラカサン^{※3}移住女性のためのエンパワメントセンター」の立ち上げにも関わり現在も活動が続けています。活動を始めて約27年が経ちます。

その後、誘われて、ふれあい館での活動を本格的にスタートし、現在に至っています。

※1 タガログ語：フィリピンの公用語の一つ。

※2 社会福祉法人青丘社：川崎南部の工業地帯に隣接する地域にあって、在日大韓基督教会川崎教会を基盤に1969年4月桜本保育園開設からスタートしました。わがままなほど、小さな地域を大切に、行政と連携して保育、児童館、社会教育、高齢者福祉、障がい者福祉など生活者の立場に立った包括的な事業実践を担う地域ネットワークをつなげています。＝HPより抜粋＝

※3 カラカサン：カラカサンとは、タガログ語で「力」という意味です。ドメスティックバイオレンス

の被害女性を主に対象とした、相談活動、暴力による被害からの回復、経済的・社会的および精神的自立に向けた支援活動、暴力の無い共生社会を目指した教育・啓蒙活動を行っています。
＝かながわ・こみゆにてい・いんふおめーしょんより抜粋＝

子どもと若者の居場所づくり

ふれあい館は、1988年に川崎市によって作られた施設で、子ども文化センター^{※4}の役割も担っています。川崎市では子ども文化センターと老人いこいの家の併設が一般的ですが、「桜本子ども文化センター」は在日韓国朝鮮人を始めとする在日外国人が子どもから高齢者まで触れ合いながら多様な人が共に生きる地域づくりを進めていくことを目的に持った社会教育施設という、他の児童館に無い特徴があります。指定管理者として青丘社が運営しています。

ふれあい館は地域の児童館なので、地域の子どもたち

は誰でも来ることができます。ここは放課後、地域の子どもたちが一緒に遊んだり、いろいろな活動をする子どもの居場所になっています。

児童館がベースとなって地域の中で「困難な状況にある子どもや若者たちの居場所づくり」を担っています。困難な状況とは経済的なことも大きいですが、家庭が生活するだけでいっぱい、いっばいでそこから虐待につながったり、家計が破綻して家がなくなってしまうたり、親自身が孤立して助けを求める声を上げられない状態のことです。川崎市の事業の一環で子どもの支援として、



各国語の「ようこそ！」
ふれあい館玄関ホール階段



鈴木 健 (すずき けん)

1974 年生まれ 48 歳

社会福祉法人青丘社 川崎市ふれあい館副館長

子どもの貧困の連鎖を防止するための生活保護世帯の中学生への学習支援、川崎市立川崎高校（定時制）の「ぼちっとカフェ」などを担当。「子ども食堂」の開設や若者の居場所づくりに携わる。ライフワークとして、特技のタガログ語を活かし、在日フィリピン人を中心とした在日外国人のサポートやコミュニティづくりに携わっている。

小中学生を対象に「生活保護世帯、ひとり親世帯の居場所づくり学習支援」というものがあります。区内に2か所、川崎市から委託を受けて青丘社が行っています。現在桜本の教室には小学生9名、中学生20名ほど、京町の教室には小学生7～8名、中学生10名ほどの人が利用しています。

小学生対象にハロハロ^{※5}クラブの活動も行っています。対象は主に外国につながる子どもです。フィリピン国籍の子どもだけでなく日本国籍の子どももいます。毎週水曜日、ほぼ区内全域を車で回り子どもたちを迎えに行きます。そして勉強をしたり一緒に遊んだ後、夕方また送って行きます。送って行った時、お母さんの相談に乗ったりすることもあります。

それとは別に日本に来たばかりの子どもたちを対象に、川崎市教育委員会が行っている「寺子屋事業」^{※6}という制度もあります。

高校生には川崎市立川崎高校の定時制（昼間部と夜間部）で「ぼちっとカフェ」という居場所を設け、週1回相談に乗ったり、カフェを開く（コロナ禍で現在は飲食の提供は休止していますが、その代わりに、食糧支援を行っています）などの活動をしています。年齢の枠で区切るのではなく継続した関わりが必要で、活動の中で国籍や年齢を超えた生徒同士の交流も生まれています。ただ、夜間部は現在の在校生が卒業したら廃止になることが決まっています。

※4 子ども文化センター：川崎市の児童館。概ね中学校区に1か所、全市で59か所あります。

※5 ハロハロ：タガログ語で「いろいろ」の意味

※6 寺子屋事業：子どもたちに、さまざまな学習機会を提供することにより、学ぶ意欲の向上や豊かな人間性の形成を図る。その事業の一つに、川崎市に暮らす多くの外国人市民の皆さんが、日本語を学ぶことで、生活の不便や不安を取り除き、自分らしく地域で生き生きと暮らせるよう地域の人たちがボランティアで外国人の日本語学習を支援しています。＝川崎市HPより抜粋＝

コロナ禍でも途切れずに

子どもたちに安心した居場所を提供するためには、家族を支えることも大切だと考えています。以前から地域の人たちと子ども食堂に取り組んでいました。子ども食堂というと貧困な状態の子どもたちしか来られないイメージがありますが、今は必ずしも貧困状態にある子どもばかりでなく、地域の誰もが来られる場所になっています。子どもだけでなく保護者も参加することができ交流の場にもなっています。そこに地域のいろいろな人たちが関わって、大人と子どもたちが出会える場所にもなっています。地域によっては共生食堂の意味合いもあります。

しかし、コロナ禍によって集まって食べるということが難しくなりました。ただコロナで学校が臨時休校になったり、行動制限されたりといういろいろな変化が起こることは予想できました。そこで、家にずっといることでしんどい思いをする子どもが増えるだろうと、食糧支援をしながら家の中にいる子どもたちを見守っていこうと始めたのがフードパントリーです。臨時休校が終わった後も地域の人たちや子ども食堂の関係者から活動を継続したいとの声が上がリ、「桜本フードパントリー」がスタートしました。ふれあい館で食料を個別に配布するのとは別に、月1回地域にチラシを配って知らせ、同じ場所で食糧支援を行っています。この活動は、緊急事態宣言下でも途切れることなく行いました。ただ、お弁当配布の方は、手伝ってくれるボランティアの感染対策のため一時中断しましたが、緊急事態宣言解除後に再開し現在も続いています。

1回約250食提供しています。料金は、1食子ども100円、大人200円です。食材の米や野菜などは寄付を受け、川崎市からの助成金とでほぼ赤字を出さずに賄っています。ここは子どもが誰でも来ることができますし、そこに关わる大人もいます。そうすると子どもと大人の出会いの機会になります。毎回来ているとお互い顔見知りになり、

深いところまで関われなくとも地域で出会うと声をかけ合う関係ができ、緩やかな地域のつながりが生まれていきます。こうした緩やかな地域のつながりで、子どもたちを中心とした見守りができ、地域の中で子どもを育てていくような支え合いが生まれてきます。子ども食堂やフードパントリーの活動は、誰もが来ることができ、開かれた関係の中で、地域の人と人のつながりの居場所づくりの大きな役割を果たしていると思います。

子どもの変化に気付く地域のつながり

困難な状況にある子どもたちの生活状況は想像以上に厳しく、それをオープンに皆に語れるかというそれは難しいと考えます。ふれあい館に通ってくる困難な状況にある子どもたちは、自分の状況をはっきり言葉にして言える子は多くありません。例えばいつも元気でエネルギーにあふれている子が、今日は落ち込んでいたりとか、毎日会っていると雰囲気や空気感で感じ取れます。それを大人が気付いてやり、必要に応じて児童相談所、区役所、学校など子どもに関わるいろいろな機関が緊密に連絡を取り合い、チームで支援していくことが大切だと思います。現在この地域での連携はうまく機能しています。

そういった意味で子どもたちには、子ども食堂のような開かれた空間(地域の人たちが支えてくれ、道で出会ったら気軽に声を掛け合えるような地域のつながりなど)と、困難な状況にある子どもを個別に支援する閉じられた空間(例えば「ハロハロクラブ」や「外国につながる子どもの居場所づくり」「生活保護世帯の子どもの居場所」等同じような状況の子どもたちの出会いの場や家庭支援を含めて安心していられる場所)の両方の居場所が必要だと思います。大人は一人ひとりの子どもの状況を知り理解して関わっていくことが大切だと思います。

生きるエネルギーを失う子どもを支える

近年子どもの自死が増えていますが、川崎区でも子どもの自死は毎年続いています。身近でも何人かが自死しました。子どもの居場所を運営する者として、この状況を何とかしなければと考えています。ですが最近地域の在り方や社会の在り方、子ども自身がすごく変化していると思いますので難しい面があります。例えば以前この地域はやっぱり子どもが多かったのですが、その子どもたちはある意味強いエネルギーを持っていました。良い面ばかりではありませんがその子どもたちがつながり合って支え合っていた面もありました。

しかし、今は子どもたちの生きるエネルギーが失われ、子ども同士のつながりも薄れ、孤立が深

まっていることを肌で感じます。この状況を変えていくのはなかなか難しいのですが、子どもたちが孤立して「私は一人なんだ」と思うのではなく「一人じゃないんだよ」と伝えることができれば良いと思っています。そのために一人ひとりに寄り添い地域で生きていく意義が感じられるような支援ができれば良いと考えています。現在ふれあい館などはその役割を担っていると思いますが、将来的にはふれあい館などの特別な場所での取り組みではなく、社会全体で困難な状況にある子どもたちを支える仕組みができることが必要だと思います。



居場所づくり ふれあい館の一コマ

「助けて」と声を上げられる社会に

貧困の連鎖が問題になっていますが、居場所づくりの活動を続けている中で貧困の連鎖は経済的な理由よりも「生きづらさ」の連鎖にあると気付きました。子ども時代の「生きるしんどさ」を抱えたまま大人になり、それが次の世代に継がれてしまう。だからこそ年齢で区切るのではなく、育ちのすべての世代に向けた長期的な支援が必要だと考えています。

もともと川崎区は日本鋼管(現JFE)で働いている人が多く、父親同士が同じ会社で働いていて緩い家族のつながりもある地域でしたが、今はそのようなつながりも無くなってきています。自治会も高齢化が進んでいく一方、タワーマンションなどができ若い世代も増えていますが、今までは自然にあったつながりが失われつつあることを実感しています。だから、今こそ地域の中で新しい人と人のつながりを構築していく必要があると思います。そのために子どもの居場所が基地となり町そのものを育てていく町づくりにつなげていきたいと考えています。

日常生活の中で困った時、当たり前「助けて」と声を上げそれを支える社会や地域になっていくことが大切だと考えています。そのための仕組みづくりをこれからも考えて地域の中に根付かせたいと思います。

「元気だから歌っている」のか

「歌っているから元気でいる」のか？

私が所属している合唱団の先輩たちを見ていつも驚かされていることがあります。

例えば、「サーティーフォー」で合唱活動をしているグループは、大学を昭和34年に卒業した仲間を中心にして作られ、童謡や唱歌など100曲以上を無伴奏で歌い、しかも全ての曲を暗譜しています。

コロナの感染拡大前は毎月2か所以上の老人ホームや病院、デイサービスなどの施設を慰問していました。

メンバーは今年85歳を迎え、なお意欲に燃えています。皆さん本当にお元気なんです。例えば、先の活動予定を決める時、各自スマホを出して「2年先の〇月〇日の予定はどうですか？」と尋ねると、その答えが「うん、大丈夫その日はまだ空いている」と。鬼が笑うというより、聞いていた私が驚かされています。大学のOB合唱団全体としては、次

に予定している第15回定期演奏会のステージは、ロシア語でチャイコフスキーの歌曲、高田三郎の男声合唱組曲「心の四季」、ミュージカルで英語・ドイツ語・日本語のステージを予定しています。練習当初は、楽譜の文字も読めないし、意味も分からない状態から理解し、暗譜していく作業が続いています。驚くことに先輩方は、50～60年前であっても、学生時代に歌った曲は一度譜面を目にすれば、不思議と口から出てくるのです。

ところが、最近初めて歌う曲は、何度歌っても記憶に残らず苦労しています。若い時に頭に入っものは、そのまま記憶として残っていることに驚き、同時に歳を取ってからの記憶力の衰えに苦笑しています。思えば月4回以上、腹式呼吸で大きな声を出し、和音の中に自分の声を入れていく緊張感。この合唱活動が先輩方を元気にしてくれる要因なのでしょうか。
(グリーン)

◎2021年自殺死亡率が最も低かった神奈川県

令和3年(2021年)年中における自殺者の総数は21,007人で、前年に比べ74人(0.4%)減少した。性別では、男性が13,939人(66.4%)、女性が7,068人(33.6%)となっている。

都道府県別の年間自殺死亡率※を見てみると、最も低かったのは神奈川県、石川県で、次いで京都府となっている。逆に高かったのは青森県、山梨県、新潟県の順となっている。(右表参照)

また、年齢階級別自殺者数では、50歳代が3,618人で全体の17.2%を占め、次いで40歳代(3,575人、17.0%)、70歳代(3,009人、14.3%)、60歳代(2,637人、12.6%)となっている。

原因・動機が明らかなもののうち、原因・動機が「健康問題」にあるものが9,860人で最も多く、次いで「経済・生活問題」が3,376人、「家庭問題」が3,200人、「勤務問題」が1,935人の順になっている。

◎2021年都道府県別自殺死亡率

○低い都道府県

神奈川県	13.2
石川県	13.2
京都府	14.6
埼玉県	15.0
千葉県	15.1

○高い都道府県

青森県	23.7
山梨県	23.7
新潟府	21.3
和歌山県	21.1
高知県	20.5

※)自殺死亡率は、人口10万人当たりの自殺者数を示す。

自殺死亡率の統計は、自殺の発生地における計上で、自殺者の居住地とは異なる。

資料：令和3年(2021年)中における自殺の状況(厚生労働省自殺対策推進室・警察庁生活安全局生活安全企画課)

【問い合わせ】 川崎いのちの電話事務局
TEL：044-722-7121（平日 10:00～17:00）
ホームページ <https://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

川崎いのちの電話チャリティー寄席 柳家^{さんざ}三三独演会 2023年3月5日開催

【日時】 2023年3月5日（日） 開場 12:30 開演 13:30
 【会場】 麻生市民館（小田急線新百合ヶ丘駅下車北口徒歩3分）
 【木戸銭】 前売り 3,500円（当日 4,000円）全席自由
 ※未就学のお子様はご遠慮ください。

【出演者】柳家三三、春風亭朝枝、鈴々舎美馬
(講談)日向ひまわり、(三昧線)森本規子

【チケット購入方法】

①郵便振込（申し込み日 2023 年 1 月 5 日より）

通信欄に住所・氏名・電話番号・希望枚数・合計金額を記入して郵便振替 00200-1-130682「川崎いのちの電話事業推進委員会」に振り込んでください。入金確認後チケットを郵送します。発送

まで1ヶ月ほど時間がかかる場合がありますので、ご了承ください。

②チケットぴあ（2023年1月5日より発売）

・セブンイレブンで直接購入（Pコード*：515137）

・ホームページ(<http://t.pia.jp/>)から申し込み購入(Pコード*:515137)



第 38 期電話相談ボランティア募集について

川崎いのちの電話は 24 時間 365 日電話を受けていますが、相談員の不足によりつながりにくい状況が続いています。来年度の相談ボランティア募集は、次号 107 号（3 月発行）でご案内します。また、川崎いのちの電話のホームページや川崎市内の市役所、区役所、図書館などの公的施設でもお知らせします。一緒に活動して下さる方をお待ちしています。

こころの健康セミナー開催のお知らせ(川崎いのちの電話、川崎市共催 入場無料)

毎年多くの方に関心を寄せていただいている「こころの健康セミナー」を今年度も開催いたします。
詳細が決まり次第、川崎市精神保健福祉センターのホームページに掲載します。

【日時】2023年3月12日(日)午後 【会場】川崎市役所第4庁舎(川崎市川崎区宮本町3-3)



ホームページ
QRコード

「リサイクル募金 きしゃぽん」でご寄付を

川崎いのちの電話では新しい寄付方式「リサイクル募金 きしゃぱん」で寄付を募っています。眠っている書籍・ＣＤ・ゲーム・切手などが電話相談の運営に役立てられます。詳細はホームページをご覧ください。

ホームページ kishapon.com/kawasaki-inochinodenwa/

資金ボランティアとしてのご支援を！

川崎いのちの電話の活動は皆様の温かい支援によって運営されております。多くの方のご協力をお願いいたします。

賛助会費・一般寄付金とも所得控除など税制上の優遇措置の対象となります

① 贊助會員 (年會費)

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

② 一般寄付（金額、回数を定めません）

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798
社会福祉法人 川崎いのちの電話

寄付感謝報告

2022年5月～
2022年8月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

「個人」

賢子眞名	圭奈 8	子藤合名	金齊河匿	代子 理己治子雄江子	菊栄 眞泰新陽晴君靖	川洲月 石島邊澤口里藤	稻馬 (8) 大 中渡大関中伊	郎徹夫二子子子子雄文	次 良將 津量知つ静雅	信 田佐田 奈 橋島塚 澤	戸 田伊山 山土丸長木藤	穴濱伊山 山土丸長木藤	コ子子子 巖夫子子巳男	ズ 年光 豐 敬 希治弘哲	力 美 岡塚村安 玉 本石部	上 林 岡塚村安 玉 本石部	村小松手木岡田坂白棚	二子 子男東清夫徳	享智 津 峯秀 孝光	田井月 田林下合井部由	安平 (7) 富小山河栗阿中	一 一 一 弓 勉子正代清隆	聖 慎 眞 和直昌	山 嵐 橋 橋 美 本木川	関光 十 高高山山 山 鎭鈴中	子子子子子雄 子巳眞	利 惠良良正勝 苑克	由 木田島瀬山 月 本島村	澤 木田島瀬山 月 本島村	栗鈴岡小深初 6 山小高	子江大徳子也二子子	美 合 紹宜信誠英桂文	月 田 藤 尾原西山川鹿	浅近加坂宮葛前横山
------	------	------	------	------------	------------	-------------	-----------------	------------	-------------	---------------	--------------	-------------	-------------	---------------	----------------	----------------	------------	-----------	------------	-------------	----------------	----------------	-----------	---------------	-----------------	------------	------------	---------------	---------------	--------------	-----------	-------------	--------------	-----------

[団体]

(株)由貴工務店 高津区鎮座白髭神社 (有)太平商事 川崎富士見ライオンズクラブ LC 国際協会 330-B 地区 5R-2Z 宗教法人潮音寺
(株)ニッケン石橋 川崎生田ライオンズクラブ (株)多摩設計 ジェクト(株) YOKOHAMA BELL ライオンズクラブ リサイクル募金きしゃぼん
募金箱 共同購入

「10万円以上の個人・法人及び各種団体」

市川 功一 (10万円) 四つ葉グローバークラブ (10万円) LC 国際協会 330-B 地区 4RC (10万円) 堂本製菓株 (10万円)
桜鳳興業株 (10万円) 国際ソロプチミスト川崎 (10万円) LC 国際協会 330-B 地区キャビネット事務局 (10万円)

合計 1,825,639 円

編 集 後 記

川崎市は南北に縦に長いので、桜本がある南部地区は余り馴染みがありませんでした。桜本を訪れた時は、高齢者カフェや子ども広場等が所々にあり、こじんまりした温かい雰囲気伝わってきました。鈴木さんは、「人と人とのつながりが薄れつつある昨今、地域の中で新しい人と人とのつながりを構築していく必要がある」と言われていました。私の住む町では、近隣の付き合いは殆どないので、どの町でもつながりが、とても大事だと改めて思いました。(町の灯)

やんちゃなエネルギーのある子どもがいなくなった！胸に強く突き刺さった。いつからだろう？本当に静かだ、世の中が大きく変わり、生きづらい中で、居場所をなくして、悲しい思いをするのは、いつも子どもたちや弱い立場の人たちだ。地域の小さなコミュニティ「ふれあい館」は、そんな子どもたちや地域の人たち、誰もが来られる温かい居場所。どこでも花が咲くように、地域のいたる所に「居場所」が咲いてくれたらどんなに素敵なことだろう。（なこね）